

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】								
2 実施対象者	学校名 : 千葉市立上の台小学校 対象学年 : 6学年 クラス(人数): 3組(107人) ※ 事前・事後アンケートは2組70名が回答								
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(<u>体育科</u> ・保健体育科) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()								
4 目標 (ねらい)	モデル校での実践等を通して、体育・保健体育の学習を充実させ、子供たちが、よりスポーツを好きになり、生涯にわたって運動に親しむ資質を育むこと、健康の保持増進のための実戦力の育成と体力の向上を図ることを目的とする。								
5 取組内容	○道すじ <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>ねらい・学習活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <u>オリエンテーション</u> ○準備運動 ○座ったままの動き ○ボール慣れ(2人組やチーム) ○試しのゲーム(リーグ戦第1試合) </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <u>ねらい「シットイングバレーボールを楽しもう」</u> ○場の準備、準備運動 ○座ったままの動き(鬼ごっこ・リレー等) ○円陣パス ○ゲーム(リーグ戦第2・3試合) ○振り返り </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> <u>ねらい「シットイングバレーボールを楽しもう」</u> ○場の準備・準備運動 ○座ったままの動き(簡単に) ○円陣パス ○ゲーム(リーグ戦第4・5試合) ○振り返り・まとめ </td> </tr> </tbody> </table> ○手立て 【用具】 ○ボールはソフトバレーボール30・50・100gを使用	時間	ねらい・学習活動	1	<u>オリエンテーション</u> ○準備運動 ○座ったままの動き ○ボール慣れ(2人組やチーム) ○試しのゲーム(リーグ戦第1試合)	2	<u>ねらい「シットイングバレーボールを楽しもう」</u> ○場の準備、準備運動 ○座ったままの動き(鬼ごっこ・リレー等) ○円陣パス ○ゲーム(リーグ戦第2・3試合) ○振り返り	3	<u>ねらい「シットイングバレーボールを楽しもう」</u> ○場の準備・準備運動 ○座ったままの動き(簡単に) ○円陣パス ○ゲーム(リーグ戦第4・5試合) ○振り返り・まとめ
時間	ねらい・学習活動								
1	<u>オリエンテーション</u> ○準備運動 ○座ったままの動き ○ボール慣れ(2人組やチーム) ○試しのゲーム(リーグ戦第1試合)								
2	<u>ねらい「シットイングバレーボールを楽しもう」</u> ○場の準備、準備運動 ○座ったままの動き(鬼ごっこ・リレー等) ○円陣パス ○ゲーム(リーグ戦第2・3試合) ○振り返り								
3	<u>ねらい「シットイングバレーボールを楽しもう」</u> ○場の準備・準備運動 ○座ったままの動き(簡単に) ○円陣パス ○ゲーム(リーグ戦第4・5試合) ○振り返り・まとめ								

【ルール】

○1チーム5・6人の6チーム。ゲームの人数は6対6（5対5）

○1回返しなしブロックはなし

- ・鋭角の攻撃がないので、ブロックの楽しさより捨ったり、つないだりする楽しさをみんなが味わえるようにした。

○キャッチを1度してもよい。

- ・つなぐ工夫として入れたが、攻防のリズムが停滞するため、第3時は「キャッチなし」のルールを提案した。つながる運動でキャッチなしの円陣パスを行い、ゲームを行ったところ、キャッチなしのシッティングバレーを楽しんでいた。

○サーブは1回ずつ交代で行う。

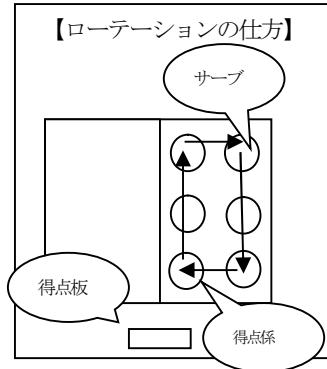
○自サーブの際にポジションを

ローテーションする。

【場】

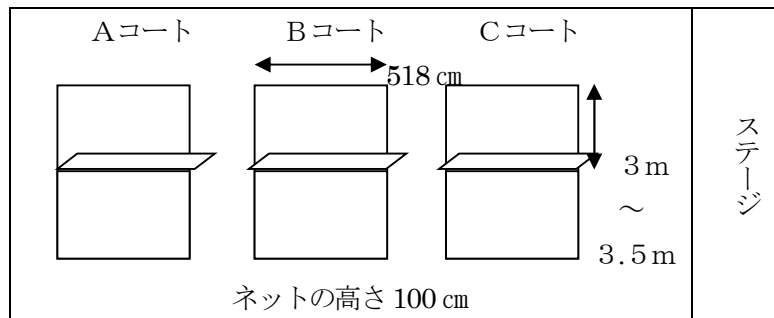
○ネットの高さ

- ・上からの攻撃を防ぎ、ラリーが続く攻防を楽しめるようにするため、100～110cmを準備した。
- ・100cmでは鋭角に攻撃を打つ子供もいたので、110cmに高さを上げて行った。



○コート大きさ

- ・バドミントンシングルコート（横518cm）を使用
- ・縦の長さは第1時は3m。実態を見て、第2時から3.5m。



6主な成果

(1) 関心・意欲・態度面

○学習に対してたいへん意欲的に取り組む姿が見られた。座る・座らないに関わらず、競争に夢中になる姿が見られた。

○第1時のオリエンテーションで、パラリンピック映像やシッティングバレーボールの競技映像を視聴したことで、運動へのイメージがもてたと共に、障がい者スポーツへの意識が「かわいそうな人がやるもの」から「熱いもの、すごいもの」に変わった。

○映像資料や実技を通して、パラスポーツやパラリンピックへの関心が高まった。

(2) 思考面

○ボールの重さ、コートの広さ、ネットの高さ、キャッチあり・なしなど、それぞれのルールの特徴を意識し、みんなが楽しめるルールを考えてプレーしていた。

○座っていて大幅な移動が制限されるため、予めチーム全体の位置を前後に移動したり、一人一人の間隔を調整したりするなど、ポ

	<p>ジションを意識してゲームに取り組む姿が見られた。</p> <p>(3) 技能面</p> <p>○ボールを打って上に上げる技能が高まった。ある程度は上に上げられないとゲームが成立しないところもあるため、つながる運動でボール慣れの機会は保障したことで技能の高まりが見られた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○映像資料「I'm possible」を用いて、見通しや関心をもてるようにした。</p> <p>○ビニール製のソフトバレーボールを使用することで、滞空時間を長くしたり、痛さや怖さを和らげたりして、ラリーのある攻防を楽しめるようにした。</p> <p>○パラスポーツへの関心を高めたり、理解を深めたりするために、授業の始めと、授業のまとめでの発問を共通のものとした。1単位時間の思考する共通のテーマを設けることで、運動に主体的に取り組めるようにした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【実際にした発問の例】</p> <p>○シッティングバレーボールをやる前・後で、どんな考えや気持ちの変化がありますか。</p> <p>○普段のソフトバレーボールと比べて、シッティングバレーボールはどんな良さや大変さがありますか。</p> <p>○普段のバレーボールも、シッティングバレーボールも、共通する楽しさはどんなことでしょうか。</p> </div> <p>○用具・コート・ルールについて、毎時間振り返り、柔軟に変更していき、みんなが楽しめるルールを考える学習としたことで、生涯に渡って運動に親しむ資質を育もうとした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○その場に座った状態で腕・手を動かしたプレーが多く見られた。おへそをボールに向ける動きは指導したことで見られたが、おしりを付けた状態で移動する動きはゲームの中ではあまり見られなかった。(動きとして日常的に行わないため、つながる運動で取り入れ、経験できるようにした。)</p> <p>○移動の技能が難しいため、ボール操作の技能がある程度ないとラリーが続かない。ソフトバレーボールの学習後に実施した方がよい。</p> <p>○倒れたり、すべったりする動きが出やすいので、半袖・半ズボンより長袖・長ズボンでの実施が望ましい。</p> <p>○運動量が少ないので、寒い時期よりは暖かい時期での実施がよい。</p> <p>○3時間で行ったところ、「まだやりたい」という声も出たが、作戦への移行は難しいため、3時間程度が適切だと考える。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○5または6年生で、ネット型のボール運動(ソフトバレーボール)の学習後に3時間実施予定。</p>
<p>10その他</p>	<p>○総合的な学習の時間でも「オリパラ教育」に取り組んだことで、よりパラスポーツやパラリンピックへの関心は高まった。</p> <p>○校内研修会でも、オリ・パラ教育の理論・実技研修としてシッティングバレーボールを行った。</p>